

## 呼吸不全

B会場(16:50~17:30)

座長 城戸 優光(産業医科大学呼吸器病学)

### B26. 慢性肺気腫に対する肺 VRS の経験

国立療養所南福岡病院

上田 仁、隠土 薫、岡林 寛、本廣 昭  
西間三馨

肺 VRS は、慢性肺気腫に対して、その QOL を改善する手術としておこなわれている。われわれの施設でも慢性肺気腫に対して 7 例肺 VRS 手術を行った。7 例中 4 例、肺癌を合併していた。手術死亡はなかった。この中で肺機能などの変化が検討できる 4 例について報告する。年齢は 65 歳が 3 例、71 歳が 1 例。男性 3 例女性 1 例で、1 例を除き、片側のみで、ステイプルを主体とする手術を行なった。肺機能は、術前 FVC  $1.78 \pm 0.54L$ 、FEV<sub>1.0</sub>  $0.58 \pm 0.32L$  であったが術後 6 ヶ月で FEV<sub>1.0</sub> の改善度が 95, 80, 75, 69% と良好であった。また、3 年経過した 1 症例は 80% の改善度から 45% へ低下した。酸素要求度においては、4 例中 2 例安静時での酸素は必要なくなったが、労作時の改善は、安静時に比べ著明でなかった。

結論 症例を選択すれば、肺 VRS は、慢性肺気腫患者の肺機能を改善する。

### B27. 肺気腫症についての外科治療適応群と非適応群の検討

福岡大学呼吸器科

豊島秀夫、石橋正義、西田富昭、白石素公  
村上英毅、久良木隆繁、渡辺憲太郎、  
吉田 稔

同第二外科 岩崎昭憲、白日高歩

目的 近年、肺気腫症に対して肺気量減少術 (lung volume reduction surgery, LVRS) が施行されるようになった。福岡大学病院における同治療の適応群と非適応群における臨床症状、理学所見、呼吸機能所見、胸部画像所見について比較検討した。

対象 1993 年以降、LVRS 適応検討のため入院した 165 症例 (男性 148 例、女性 17 例) のうち適応群は 83 例 ( $66.9 \pm 7.6$  才)、非適応とされたのは 82 症例 ( $70.9 \pm 5.5$  才) であった。

結果 一般身体所見、臨床検査では全体的に両群に大きな差異はなかった。適応群の FEV<sub>1.0</sub> は 1995 年までは 370ml から 1870ml まで広く分布していたが、その後の症例ではほぼ 500ml から 1000ml の間にあった。非適応の理由としては 1) 内科的治療により自覚所見の改善したもの 2) 画像所見上、気腫性変化がほぼ均一なものが多く、呼吸機能上では適応群より軽症である傾向が認められ、高 CO<sub>2</sub>血症、高度な肺高血圧症を伴う症例は極く少数であった。

結論 非適応群では、外科治療による効果が余り期待出来ないものが多く、十分な内科的治療に対する反応性を見て適応を検討する必要性のあることが示唆された。

**B28.** HOT 患者に対する 3 種類の伝票式  
チェック票の有用性の検討

国立療養所大牟田病院

光山孝志、北原義也、若松謙太郎、  
永田忍彦、原田進、高本正祇

目的 在宅酸素療法 (HOT) 患者の状態把握を  
目的としたチェック形式の伝票 (以下伝票) 使  
用の有用性の検討を目的とした。

対象と方法 当院外来受診中の HOT 患者全  
員を対象とし、平成 8 年 4 月から平成 11 年  
9 月末までの期間のデータを使用した。伝  
票(1)在宅酸素質問票、伝票(2)ADL 質問票、  
伝票(3)パルスオキシメーター検査票の 3 種類  
の記載をルーチン化して患者状態把握に使用  
した。これらの伝票を使用することの有用性  
を評価するため、利用する側の医師と、記載  
する側の患者に対してアンケート調査を行っ  
た。

結果とまとめ 伝票(1)は患者の家庭での  
HOT の状況把握や病状変化を知るのに役立  
った。伝票(2)は家庭での ADL を把握するの  
に役立った。また伝票(3)は来診時の酸素飽和  
度と脈拍数を経時的に把握するのに有用であ  
った。患者は 5 割以上が自分で伝票を記載し  
ていた。特に伝票(3)に対して医師の評価が高  
かった。短時間の外来診療の中で、患者の状  
態を伝票形式で把握する方法は医師、看護婦、  
患者のニーズを満たす優れた方法である。

**B29.** 国立療養所における在宅酸素療法症  
例

国立療養所中央研究「呼吸不全」研究会

池田東吾、犬塚 悟、相澤久道、永田忍彦  
田中拓夫、福島一雄、伊井敏彦、苑田文成  
宮城 茂、川城丈夫

国立療養所中央研究「呼吸不全」研究会で  
は 1998 年 7 月から在宅酸素療法新規開始症例  
の登録を行っている。国立病院・療養所には  
HOSPnet と称するイントラネットがあるの  
で、この中にホームページ (<http://w3.hosp.go.jp/~rfs/g/>) を置き、この共同研究の進行状  
況が随時参照できるようにした。2000 年 4 月  
末までの登録総数は 574 例であり、この内九  
州管内の国立療養所の症例が 217 例 (38%) を  
占めている。原疾患の内訳は肺気腫 159 例  
(28%)、肺結核後遺症 154 例 (27%)、悪性  
腫瘍 85 例 (15%)、肺線維症 60 例 (10%) で  
あった。施設間での差異もみられるが、国立  
療養所ではまだ肺結核後遺症がかなりの割合  
を占めている。

対象症例の変化や、疾患・病態・治療別の  
経過などを知る上でこのような多施設共同研  
究の長期的継続が望まれる。